

2. 豊島区 令和3年度地方公共団体における効果的な熱中症予防対策の推進に係るモデル事業

(豊島区、株式会社タニタ)

目的：

熱中症は「予防効果が最大の病気」と言われ、知っていれば防ぐことができる。

しかし熱中症による死亡例は後を絶たず、また2020年の熱中症死亡者数の約9割は高齢者であったことから、高齢者に占める一人暮らし高齢者の割合が高くなっている本区において熱中症予防対策に取り組む必要がある。現状、熱中症アラートや区公式ホームページでの呼びかけ、リーフレット配付などの対策を行っているが、一般的な予防啓発にとどまっている。

今回、株式会社タニタと協働で、モデル事業として熱中症リスクの見える化を行った上で、注意情報の呼びかけ・啓発活動を強化する。本取組を通じて、SDGs未来都市として「目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」を実践する。

取組内容：

1 熱中症データ取得・見える化

区民ひろば・体育施設等を活用して、豊島区全体にまんべんなく通信機能付き熱中症計を設置する。取得した熱中症データはクラウド上に集約し、熱中症データを一括して区役所内で閲覧可能とする。

2 啓発活動の強化・実施（令和3年度）

(1)注意情報の呼びかけ

高齢者の利用が多い施設（区民ひろばやフレイル対策センター等）で、注意喚起並びに熱中症対策の啓発を行う。

(2)セミナーの実施

区民の熱中症対策意識向上のため、栄養士等の専門家によるセミナー等を開催する。

3 熱中症データの共有・計画の作成

区役所内の全庁会議で、熱中症データを共有する。特に熱中症リスクの高くなる地域や時間の情報を参考に、熱中症予防対策の計画を作成し、令和4年度以降も継続的に実施する。具体的には高齢者への冷房使用等を重点的に周知する方法を検討する。熱中症リスクの高い地域にはメールでのアラート通知等のアナウンスを検討する。また将来的には区民がリアルタイムで地域の熱中症リスクを閲覧できる体制づくりを進める。

